

## ① 令和3・4年度 跡津川上流砂防堰堤工事における「工事車両の安全な運行」について

坂本土木株式会社

令和3・4年度 跡津川上流砂防堰堤工事

工期：令和4年 1月 15日 ～ 令和4年 9月 3日

現場代理人

さかもと ただし

監理技術者

○ 坂本忠司

【キーワード：第三者事故、創意工夫】



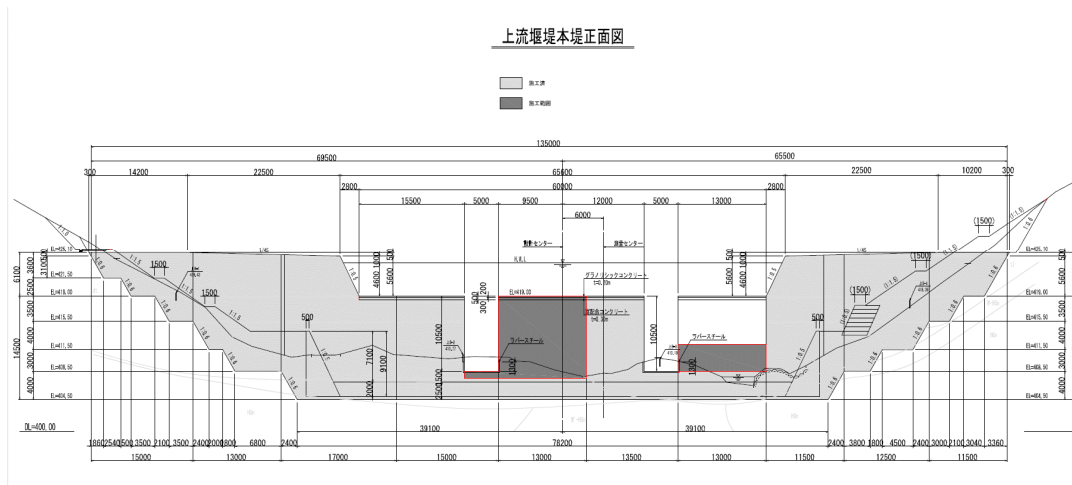
## 1.1 まえがき

本工事の施工箇所は飛騨市神岡町跡津川地先であり、現场上流は深層崩壊の発生の恐れのある溪流となっています。そのため、下流域に生活する人々や施設等を土砂災害から守る砂防堰堤を建設する工事でした。

今年度行ったコンクリート堰堤本体工の施工の中で実施した安全対策について報告します。

## 1.2 工事概要

堰堤本堤 正面図



主な工事内容

コンクリート堰堤本体工

コンクリート 1,681 m<sup>3</sup>残存化粧型枠 410 m<sup>2</sup>提冠保護工 97 m<sup>2</sup>

仮設工 1 式

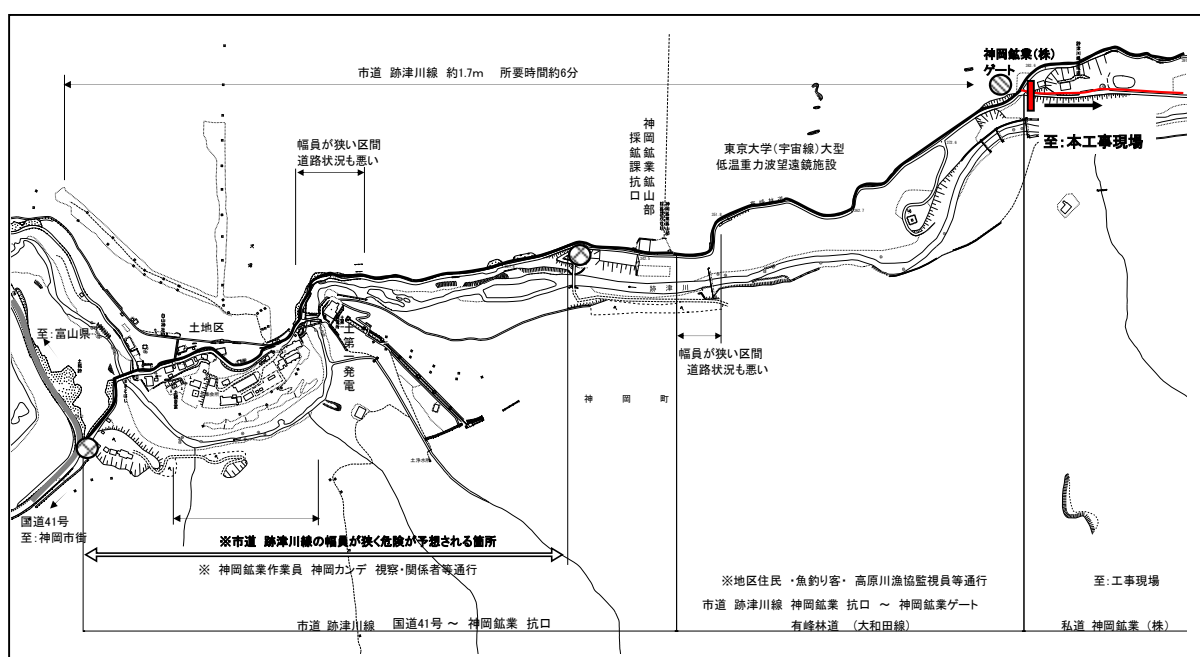
## 2 序論

### 工事車両の安全な運行について

本工事の施工箇所へは、冬から夏にかけ、国道41号から市道跡津川線（1.7km、6分）、神岡鉱山の私有地を含む工事用道路（1.3km、5分）を通り、以下の施設が隣接する中、工事用車両が通行する必要があった。

工事用車両としては管理者、作業員運搬車両：5台/日、資材運搬：1台/日、アジテーター車：27日450台などが通行した。

- ① 国道 41号  
+300m
- ② 跡津集落  
+100m
- ③ 県土木発注 橋梁工事  
+100m
- ④ 神岡鉱山 発電所  
+500m
- ⑤ 神岡鉱山 施設  
+400m
- ⑥ 東京大学、東北大学研究施設  
+400m
- ⑦ 市道から工事用道路へ入場ゲート  
+1200m
- ⑧ 急峻な工事用道路  
+300m
- ⑨ 施工箇所







### 3.3 道路整備

市道跡津川線、工事用道路を冬期から長い間使用するため、仮設備維持作業を行い、安全な運行を心掛けた。

離合場所の設置整備



路肩の明示



凍結防止材の配備



維持修繕作業



維持修繕作業



凍結防止作業



## 4 結論

### 対策の効果

今回発表した「工事車両の安全な運行」に対する取り組みは、地域と各事業との関係が深く、心配していたクレームもなく、無事故で工事が終わることが出来、良かったと思います。

## 5 まとめ

この取り組みの過程で地域と各事業とのコミュニケーションを図ることで工事に対する理解が得られたのは大きな収穫でもありました。

最後になりましたが、工事をよりよい方向に導いてくださった神通川水系砂防事務所ならびに栃尾出張所の皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。